

福祉社会開発研究科 博士課程 【授業科目】

科目名	福祉社会開発研究方法論特講	2 単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            科学 研究方法 質的方法 量的方法 混合研究法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。具体的には、質的方法、量的方法、混合研究法を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法等について解説する。量的方法に関しては、仮説の作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と多変量解析について学びます。混合研究法に関しては、混合研究法の定義、種類、研究の進め方、注意点等について説明を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            科学の歴史と現状を理解する。            質的方法を理解する。            量的方法を理解する。            混合研究法を理解する。</p>	
授業の進め方	<p>本科目は<b>オンデマンド授業になります。ディスカッションはありません。</b>            「nfu.jp」→「スタディ」から受講して下さい。            各回のオンデマンド授業を視聴し、質問があれば掲示板に書き込んでください。            進行の目安は、各回2週間程度とします。</p> <p>第1回 5月10日～ 科学とは何か：その歴史と現在            第2回 5月24日～ 質的方法の概要            第3回 6月7日～ 質的データの取り方            第4回 6月21日～ 質的データの分析Ⅰ：グラウンデッド・セオリー・アプローチ            第5回 7月5日～ 質的データの分析Ⅱ：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ            第6回 7月19日～ 質的データの分析Ⅲ：参与観察法・エスノグラフィー            第7回 8月2日～ 質的データ分析Ⅳ：ケーススタディ            第8回 8月23日～ 量的方法の概要：仮説の設定            第9回 9月13日～ 質問紙の作成と配布の方法            第10回 9月27日～ 質問紙の配布とデータ入力            第11回 10月11日～ 関連を検討する：単純集計とクロス集計            第12回 10月25日～ 統計的検定            第13回 11月8日～ 多変量解析Ⅰ：t検定・分散分析・相関分析・回帰分析            第14回 11月22日～ 多変量解析Ⅱ：因子分析・信頼性分析            第15回 12月6日～ 混合研究法</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>質的研究に関しては、ウヴェ・フリック(2011)『質的研究入門(新版)』春秋社を、量的研究に関しては、サラ・ポスラフ(2015)『統計クイックリファレンス(第2版)』オーム社を、混合研究法に関しては、ジョン・W. クレスウェル(2017)『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版を読んで上で、本講義を受講してください。各回の講義で紹介される参考図書も積極的に読んでください。</p>	
本科目の関連科目	—	
テキスト	—	
参考文献	<p>伊丹敬之(2001)『創造的論文の書き方』有斐閣            パンチ,K.F.(2005)『社会調査入門：量的調査と質的調査の活用』春秋社</p>	
レポート課題、単位認定方法と基準	<p>レポート課題は各自の調査と分析の計画です。その内容を見て、評価を行います。</p>	

科目名	福祉社会開発政策・実践論特講	2 単位
担当者	申請に基づく単位認定科目（各専攻において単位認定判定を行う）	
テーマ	福祉・医療・介護・開発の政策・実践に応える研究アプローチを学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ソーシャルワーク、スーパービジョン、地域包括、ICF、社会開発、社会保障</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 福祉・医療・介護・開発をはじめ幅広い分野を対象に、政策・実践の両面からアプローチし、問題を解決する上での政策枠組み・地域志向の視点・社会開発の方法など幅広い観点から、高度で専門性の高い内容について展開する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 政策・実践の両面からのアプローチ手法を理解する。 問題解決志向の研究視点を身に付ける。実践現場の課題解決に応用する視点を身に付ける。</p>	
授業の進め方	<p><b>第1回 5月30日（日） 13:15～16:30 &lt;久野研二先生&gt;</b> 【講義・演習】多様性を前提とした共生社会の実現に向けて：オリパラ東京 2020 大会ボランティア集合研修で 8 万人が受講した障害平等研修(DET)の体験と議論(障害を議論の入り口として)</p> <p><b>第2回 6月13日（日） 13:15～16:30 &lt;野村豊子先生&gt;</b> 【講義】スーパービジョンの理論と方法：-個人スーパービジョンとグループスーパービジョン 【演習】スーパービジョン契約の重要性</p> <p><b>第3回 9月12日（日） 13:15～16:30 &lt;大橋謙策先生&gt;</b> 【講義・演習】地域福祉とコミュニティソーシャルワーク -地域共生社会政策における新たな社会福祉</p> <p><b>第4回 10月10日（日） 13:15～16:30 &lt;白澤政和先生&gt;</b> 【講義】地域共生社会確立に向けたソーシャルワークの課題 -市町村は重層的支援体制をいかにつくるのか 【演習】地域共生社会づくりでのソーシャルワークの方法 -地域のストレングスを活かすコミュニティ・マネジメント</p> <p><b>第5回 11月27日（土） 13:15～16:30 &lt;上田敏先生&gt;</b> <b>11月28日（日） 10:00～14:30</b> 【講義】全人間的理解のツールとしての ICF（国際生活機能分類）（1） 【演習】ICF を用いての人間理解 -事例を通じて学ぶ（1） 【演習】ICF を用いての人間理解 -事例を通じて学ぶ（2） 【講義】全人間的理解のツールとしての ICF（国際生活機能分類）（2）</p> <p><b>第6回 12月12日（日） 13:15～16:30 &lt;中村秀一先生&gt;</b> 【講義】社会保障の現状と課題 【演習】政策目標の変遷とその背景</p>	
単位認定申請手順	<p><b>【1. 単位認定申請の手順】</b> 1)大学院特別公開セミナーの、参加申込の手続きをおこなう。 申込先…<a href="https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/2021/kenkyu/">https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/2021/kenkyu/</a> 2)全 6 講中 5 講義以上を受講し、受講後「受講証」を受け取る。 3)レポート課題の作成。 ※下記「成績評価方法と基準」欄に示すテーマについてレポートを作成してください。 4)必要書類(受講証・レポート課題)を提出し、単位認定申請をおこなう。 ※単位認定申請の結果は後期成績発表時に通知します。</p> <p><b>【2. 単位認定の申請期限および申請方法】</b> 1)提出書類:受講証 + レポート課題 2)提出期限:<b>2022年1月14日(金)</b> 3)提出方法:窓口提出または郵送 ※郵送の場合は期日必着 [宛 先] 〒460-0012 名古屋市中区千代田 5-22-35 日本福祉大学 名古屋キャンパス 大学院事務室</p> <p><b>※本科目は、年度当初に履修登録をおこなう必要はありません。</b></p>	
成績評価方法と基準	<p>大学院特別公開セミナーの受講証の提出と、提出されたレポートが「合格」と判定されると、単位が認定されます。 レポートのテーマは、「セミナーを受講し、新たに学んだ点、自身の研究・実践に活かせると考えた点」などについて、A4版（40 字×40 行程度）3 枚以内で作成してください。</p>	

## 科目概要

□福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻 博士課程

### [社会福祉特別研究]

研究テーマ	地域福祉実践
担当者	平野 隆之
内容	地域福祉研究は、地域福祉の推進研究の段階にきている。推進方法の研究として実際の実践を対象にしたフィールドワーク研究が重要となり、それを担うのが地域福祉実践特別研究である。地域福祉実践の事例研究方法の修得とそのモデル化を研究するとともに、地域性を踏まえた研究枠組みを構想する。地域福祉実践を推進するための方法を、マイクロ・メゾ・マクロの各レベルで体系的に整理するとともに、それらの相互関係を研究の対象として重視する。

研究テーマ	社会福祉運営管理論
担当者	小松理佐子
内容	本特別研究では、社会福祉の政策(Social Policy)と実践(Social Work)の間をつなぐ領域に焦点を当て、両者を効果的に展開するための方法論を取り扱う。元々の社会福祉運営管理論は、行政による運営管理(Social Administration)を研究課題としてきた。しかし、今日の日本では公的福祉サービスの多くが措置制度から契約制度へと移行し、供給主体の多元化が進行する中で、地域包括支援システムの構築、社会福祉法人等の組織の運営管理、新たな社会福祉資源の開発といった多様な課題が生まれている。以上のことから、本特別研究では、①社会福祉運営管理をめぐる研究課題を発見するための方法論と、②その課題を解決するための研究方法を身につけること、をねらいとしたい。

研究テーマ	社会老年学・高齢者福祉論
担当者	斉藤雅茂
内容	人口の高齢化に関わる諸問題への対応は地球規模の重要課題の一つである。本研究では社会老年学および高齢者福祉領域における問題群(貧困・剥奪・社会的排除、社会的孤立、健康格差、ソーシャル・キャピタル、地域共生など)および諸理論・研究手法・研究動向を学び、社会福祉・地域福祉の実践および政策立案に貢献できるエビデンスを提供する研究を行うことを目的とする。本演習を通じて、質的な情報の重要性も踏まえつつ、STATA もしくは SPSS 等の統計ソフトを用いた統計解析の基礎的なスキルを習得し、国際誌で通用する標準的な統計手法に基づく定量的・計量的なデータ解析を行う力を身につけることが期待できる。

研究テーマ	公的扶助・社会保障論
担当者	山田壮志郎
内容	本特別研究のねらいは、公的扶助や社会保障政策のあり方を考察することを目的とした博士論文の執筆に必要な研究方法や論文執筆技法を学ぶ点にある。社会保障は、貧困に象徴されるような社会的に生み出される生活困難について、それらを解決すべきであるという社会的合意に立脚しながら、保険や扶助といった政策技術を用いて解決を図ろうとするものである。したがって、本特別研究では、研究方法や論文執筆技法を学ぶと同時に、その前提として、社会保障や公的扶助が拠り所とする理念や価値、政策対象となる人々の生活実態や社会的背景、問題を解決するための政策技術や方法を包括的に理解することを目指す。

研究テーマ	社会福祉方法論
担当者	田中 千枝子
内 容	<p>社会福祉の実践方法であるソーシャルワークは、歴史的なパラダイム変更を経ながら現在に至っている。また今後も未来に向けてソーシャルワーカーの「世界観」「人間観」「援助観」等が、ヒト・環境との時間的・空間的な相互・相互作用の中で生じる問題や課題を通じて、厳しく問われ続けるであろう。本特別研究では、従来ソーシャルワークが提示してきた理論枠組みを整理した上で、現代の Social issue に対する実践理論レベルのアセスメントおよびインターベンションの有り様を、ミクロからメゾ、そしてマクロにおける様々な論点から、実証的に検証していく。そしてその教育的成果として、スーパービジョンの視点や技術の向上、および理論化に貢献したいと考えている。</p>

研究テーマ	ソーシャルワーク実践理論
担当者	野村 豊子
内 容	<p>ソーシャルワーク実践理論は、文化、言語、民族、自然環境等の多様性と時間・空間・関係性の諸要素を独自のらせん状に位置付け、価値観・知識・技術を基盤として生成されてきた。私の専門は、高齢者福祉・認知症高齢者ケアの分野で回想法・ライフレビューの臨床実践と効果評価、メゾレベルにおけるグループワーク等、介入研究を主としてきた。また、教育・研修で、スーパービジョン・コンサルテーションに関する実際と評価の枠組みを検証している。本特別研究では、高齢者福祉・精神保健福祉分野を中心として、各領域の諸モデルやアプローチの歴史的背景と理論構成の探求、及び、諸レベルの実践の理論化を車の両輪として、研究の進展を意図する。</p>

研究テーマ	ケアマネジメント実践論
担当者	篠田 道子
内 容	<p>本特別研究におけるケアマネジメント実践論は、狭義のケアマネジメントにとどまらず、保健・医療・福祉・介護分野にまたがるもので、テーマは多岐にわたる。具体的には、組織経営、人材マネジメント、多職種連携教育、サービスの質の評価、終末期ケアマネジメント、ケアマネジメントの国際比較などである。研究方法は、実践研究、臨床研究、プログラム評価研究や介入研究など実証研究が中心であり、トライアングレーション法(量的・質的調査研究法)を推奨している。</p>

研究テーマ	福祉教育論
担当者	原田 正樹
内 容	<p>地域共生社会の実現にむけて、制度やサービスの整備だけではなく、人々の福祉意識や主体形成へのアプローチが必要である。それは完全参加や協働といった形態もあれば、ボランティアや市民活動といった活動もある。具体的にはESD(持続可能な社会開発の教育)やサービスラーニングといった方法もある。そこでは福祉教育の原理(価値)が問われなければならない。差別や偏見、社会的排除が起こりうる要因分析とその解決にむけた教育方法、あるいは評価手法が問われる。専門性とパターンリズム、当事者性と優生思想、ボランタリズムとシステムなど今日の社会問題を、地域福祉という視点から問い直すことで、エンパワメントとしての福祉教育を再構築する。</p>

研究テーマ	福祉住環境論
担当者	児玉 善郎
内 容	<p>人間生活の基盤となる住居や施設の環境は、そこで暮らす人々の生活の質に大きく影響する。支援を必要としている人びとの生活を支えるサービスや援助を有効に機能させる為には、居住環境の問題に焦点をあて、その問題の改善とより良い状態に保つ方策を合わせて検討する必要がある。本研究では、子ども、高齢者、障害者をはじめ地域で生活するすべての人びとが安心して住み続けることができる居住の場と居住支援のあり方について、現状の実態を解明する。さらに、住み続けられる居住の場と居住支援が有効に機能するための具体的方策について、法制度・施策、空間計画、運営方策など多角的かつ実証的に検討する。</p>

研究テーマ	家族福祉論
担当者	後藤 澄江
内 容	<p>本特別研究は、ケア(育児や介護)をめぐる理論・政策・実践を把握・分析する方法や論文の作成技法を獲得することをねらいとしている。人間社会の基礎的集団である家族は、対個人および対社会の双方にとって、子育てや介護等の福祉水準を左右する重要な役割を果たしてきた。しかし、近年、子どもや高齢者等の「いのち」や「暮らし」の尊厳を守ることが困難な家族状況が目立つようになっている。そこで、そのような困難に陥っている家族集団や家族関係の維持・発展を援助すること、あるいは、家族外のサービスの導入を支援することを通して、個々の家族メンバーの福祉の実現をめざす福祉関連専門職やNPO等の実践が重視されつつある。本特別研究では、このような実態を把握するとともに、それらの実践を根拠づける概念や理論の発展に結びつく研究力量を身につけることができる。</p>

研究テーマ	ジェンダーと社会福祉
担当者	末盛 慶
内 容	<p>本特別研究の目的は、家庭生活、労働生活、ジェンダーをめぐる多様なテーマに関する理論的知識を得ること、そして学術研究に必要な研究方法および論文執筆の技法を学ぶことである。家庭と労働は社会を支える2大要素であり、社会福祉分野および少子化などの社会構造にも大きな影響を与える。現在、家庭生活も労働生活も変化の途上にあるが、こうした変化を社会学的およびジェンダーの視点で読み解き、今後の方向性を探求していく。</p> <p>本特別研究により、①社会学およびジェンダー論など社会学的な視点、②論理学を基盤とした研究上必要とされるリテラシー、③質的量的双方に関する方法的な知識、技術、態度を獲得することができる。</p>

研究テーマ	障害者福祉論
担当者	木全 和巳
内 容	<p>「障害(disability)」と関連する「社会的諸実践」の理論研究は、実践の科学として、国際的にも、国内的にも、新しい展開を示しつつある。近代の障害類型論的アプローチから現代のソーシャル・インクルージョンかつ発達保障論的アプローチへの展開である。そこには「障害」概念や「自立」概念、「人権保障」の問題なども再検討も含まれる。「医学モデル」から「社会モデル」、そして、「人権モデル」への発展である。こうした展開故に、現代日本の政治は、「権利条約」の具現化と「骨格提言」の実現に十分応えきれないまま、「我が事・丸ごと」地域再生本部の「地域共生」概念にみられるように問題を矮小化しつつ、貧困や差別という生活問題を顕在化させ、「障害問題」も解決ができないでいる。</p> <p>この特別研究では、こうした国内外の動向を機能障害のある人たちやその家族の生活実態に引きつけて、「実践」を基礎にして、政策、理念、価値、方法などを実証的、歴史的、社会科学的に吟味することによって、「障害」問題の現代特質と「障害」福祉の課題を基本的に再構成する意義・必要性を明らかにしていく。</p>

研究テーマ	障害者スポーツ論
担当者	藤田 紀昭
内 容	<p>共生社会の実現に対してスポーツが重要な役割を果たすことが期待されている。しかしながら、障害のある人がスポーツを実践するに際しては様々な困難がある。例えば、国や地域における行政施策やその推進体制といった課題、障害のある個々人のスポーツキャリアや家族による支援といった課題、そして、指導者資質や、学校体育(インクルーシブ体育)、パラリンピック教育、各競技団体の在り方などの課題などである。本特別研究ではこうした障害者スポーツに係る課題の実際をインタビュー調査などの質的調査、アンケート調査などによる量的調査、障害者スポーツの現場への介入調査などにより明確にするとともに、その解決方法を提案する。</p>

研究テーマ	司法福祉論
担当者	湯原 悦子
内 容	<p>本研究は司法を通じて解決を図ることが求められる問題群(犯罪や非行など)や司法を活用することが解決に役立つような問題群(虐待や扶養など)に関する諸理論を学び、学術研究に必要な研究方法および論文執筆の技法を修得することを目的とする。司法福祉は法的決着がついてもなお残る人々の生きづらさ、時を変え、場所を変え、同じような問題が繰り返される事項について、福祉の視点から「真の」意味での解決、臨床的な解決のあり方を模索する学問である。本研究を通じて、司法と福祉双方の視点や価値を熟知し、司法福祉領域の研究と分析を行う力を身に付けることが期待できる。</p>

研究テーマ	精神保健福祉論
担当者	大谷 京子
内 容	<p>本特別研究では、精神保健領域のソーシャルワークにかかわる理論と実践に関する多様なテーマを探求する方法と、博士論文作成の技法を習得することを目指す。特有の歴史を持つ日本の精神保健福祉領域における、社会福祉学研究とソーシャルワーク実践は質も量も十分とはいえない。それでも着々と理論的・方法論的研究も蓄積されてきており、卓越したソーシャルワーク実践が展開されている。日本の本領域の発展に貢献する研究が求められている。本特別研究では、①世界的な潮流と日本の現状の把握、②社会福祉学研究の視点の習得、③研究方法論の習得ができる。</p>

研究テーマ	社会福祉人材養成論
担当者	保正友子
内 容	<p>本特別研究では、社会福祉人材の養成に関する諸理論を学び、時代のなかで要請される人材育成について、価値・知識・技術面から探求し、博士論文作成に必要な研究能力の向上を目的とする。養成校時代から現場実践の過程で求められる実践能力とはどのようなことか、社会福祉人材にはどのようなキャリア形成が求められるのか、実践能力向上やキャリア形成を阻む要因は何で、どうすれば解決できるかという視点から研究を深めていく。</p> <p>本特別研究により、①社会福祉人材養成のあり方を探求する視点、②社会福祉学を基盤とした研究的なものの方・考え方、③社会福祉学の方法論の修得ができる。</p>

研究テーマ	地域福祉政策
担当者	野口 定久
内 容	<p>グローバル化とローカル化の同時進行のなかで、現代の福祉問題の多くは、その解決の「場」をローカルズムに求めている。本特別研究では、それら公共的諸問題の解決の方法として、地域福祉計画を通じての地域再生論、ソーシャル・ガバナンス論、住民自治論、そしてソーシャル・ビジネス論の考え方と実践例を解説・分析する。さらに、これからの地域福祉の思想や実践、財源調達や公共経営、地域福祉サービスの協働運営、地域居住環境やソーシャルキャピタル論についても言及する。国家レベルを超えた地域社会レベルでの地域福祉計画や地域包括ケアシステムの共通項を通して東アジア域内の福祉国家や福祉社会の方向を検討する。</p>

研究テーマ	健康医療社会論
担当者	山崎 喜比古
内 容	<p>旧来の私の専門は健康社会学・ヘルスプロモーション健康教育学である。思春期・青年期、成人期、高齢期の人たちを対象に、健康(=健康生成アプローチと健康生成力SOC)の観点から、社会(産業・職場、学校、地域・家庭)や保健医療のあり方、さらには個々人の「生き方」や「働き方」を問い、1、実証データを基に健康な社会づくりと個人内外の健康資源づくりを提言・示唆してきた。10年くらい前から、健康にウェルビーイング、QOL(生命・生活・人生の質)、福祉(というより「ふくし」)を統合した観点からの社会～個々人のあり方研究を進めており、収斂先の名称は「健康福祉社会論」が似つかわしい。方法論的には、量的・質的調査研究法を併用した方法論的複眼と、調査研究を終始当事者との共同で進める当事者参加型リサーチ方式が取られるか何らかの形で生かされるかしている点に特色がある。</p>

研究テーマ	障害者支援論
担当者	柏倉 秀克
内 容	<p>障害者や難病患者が抱える問題は個人の機能障害や能力障害、疾患の問題だけではなく、社会や環境との関係によって生じていることを理解する必要がある。こうした基本理念に基づき、個々の障害特性等をふまえた包括的な支援が必要となっている。本特別研究では、障害者や難病患者が置かれてきた歴史的状況、障害者や難病患者を取り巻く国際的動向を注視しつつ、障害者問題等の本質を多方面から検討する。さらに障害者や難病患者のライフステージに沿った療育、特別支援教育、各種リハビリテーション、自立生活支援、就労支援、権利擁護、ピアサポートといった具体的なテーマを取り上げ、当事者や家族の視点から実証的に研究を深める。</p>